王先謙注に見える「諸詮賦」について

【校勘】

本文「戸廬參差」の「戸」の文字の注に、王先謙は「官本引蕭該音義曰、戸一本作何。諸詮賦、戸音初綴反。」とあり、本引く蕭該音義に曰、戸は一本何に作る。諸詮賦、戸音は初綴反。とし、諸詮賦、戸音初綴反。

高芝麻子
すなわち、王先謙の文では「諸詮賦、俳の音は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ないが、拜經堂版では「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ないが、拜經堂版には「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜經堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。また「諸詮賦、俳は初詮の反」と訓じて「諸詮賦」を一語とせざるを得ない。実際、拜経堂版には、「諸詮賦」の四字がたびたび見られる。
本来「諸詮賦音」とすべくものである。「諸詮賦音」は書名と考えられ、諸詮之「日賦音」十巻を指する可能性もある。

注

(1) たとえば「諸詮賦音苦嚥反」、「諸詮賦音苦嚥反」など。「漢書音義」巻中「揚雄傳」巻五十七

(2) たとえば「諸詮云齊沮謨反」、「諸詮作宣訃言呼盛反」、「諸詮作張萌反」など。「同右」

(3) 王先謙が引く「音義」には「諸詮賦音苦嚥反」など、「諸詮賦音」の形で引かれている句も見え、拜經堂版と一致する箇所も多い。